

# みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 6 NO. 2

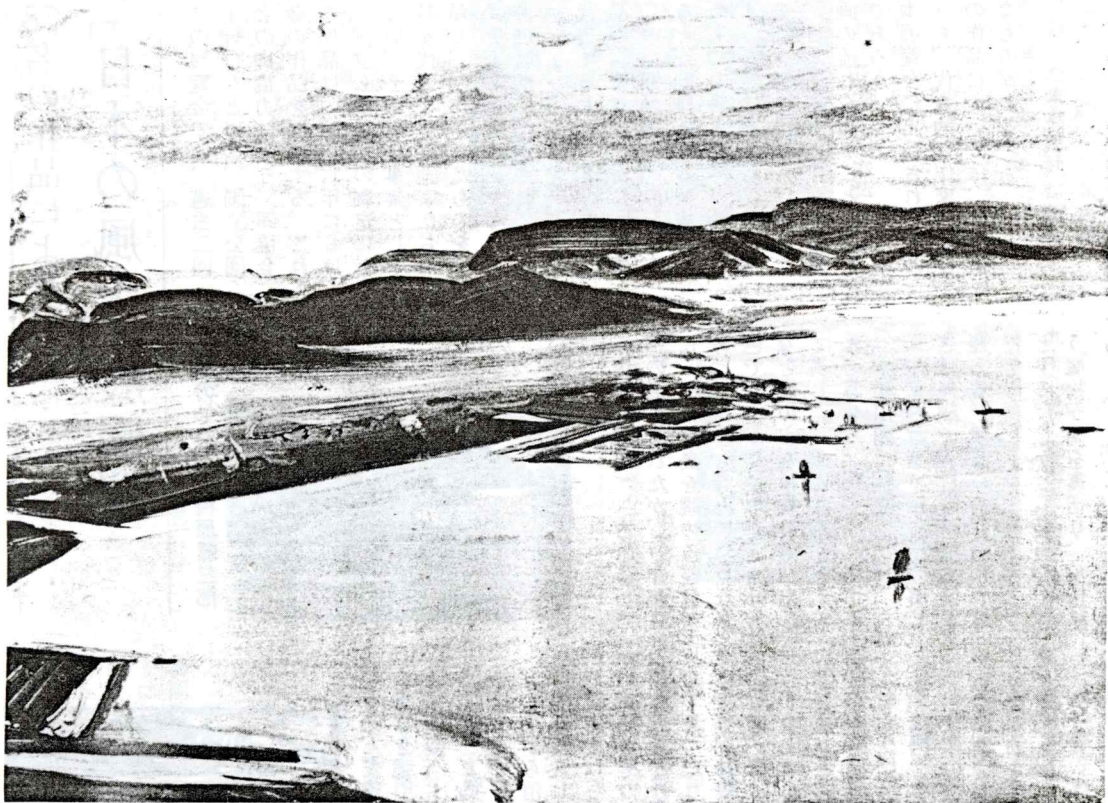
昭和54年6月20日発行

編集・発行人 市原 正夫

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311(代表)



藤島 武二「屋島よりの展望」

## 観潮台

待望久しかった美術普及棟と呼んだ県民アトリエの建設が始まり、基礎的な工事が着々と進行している。地域の生活文化としての美術の普及振興に、美術館の果たす役割は重大である。具体策は地域の性格から様々なことが考えられるが、「みる・かたる・つくる」総合的な美の広場をめざす本館では、表層的な作品鑑賞だけでなく、美術に関する基層的な情報把握と実技習得、あるいはゆとりを求める個人や団体の楽しい拠点化を考慮して、県民アトリエ構想を確立した。

県民アトリエは、面積約一五〇〇平方メートルの平屋建である。ここに①アトリエ②講堂③情報資料室④研修室・事務室・ロビー・売店などを配置し、本館がめざす美術の普及振興のための「みる」以外の「かたる・つくる」分野の活動を期している。こうして、不特定多数の利用者を友の会に誘い、美の広場を継続性のある環境にしたいと、設備と運営の充実を考えている。

この県民アトリエは昭和五十五年一月に完成する。二期待を乞う次第である。(高橋在久)



# 現代洋画界の巨匠78名の作品による

## 「日本の風土」展開催

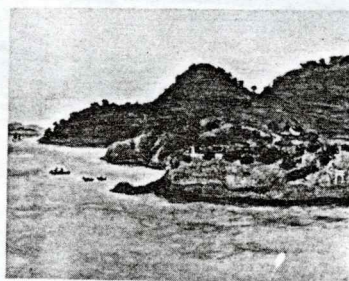
風景は、私たちのより身近なものとして存在し、多くの作家たちが、恰好なモチーフとして描いてきた。作家たちは、その風景画の中に、それぞれの生活体験から眺めた景色を表現し、独自の美の世界を築きあげている。

千葉県は、首都東京に隣接し、純朴な気風と、温暖で恵まれた風土、変化に富んだ景観から、写生地として訪れる美術家が多く、数々の名作が描かれていた。そのような状況をかんがみて、本館では昭和五十年に「描かれた房総」を開催し、近代日本美術史を形成した房総での作品を展観することにより、写生地としての房総を知るだけでなく、房総の風土と生活が、作家の目にどう反映してきたかを探索した。また、昭和五十二年には「海と湖沼展」として、日本の海と湖沼を題材にした作品を通して、焦点をしばって風景画における作家の世界を迫りもとめた。

この展覧会では、過去二回の主旨にもとづき、国立公園協会の御協力により、同協会所蔵の作品を展観する。これらの作品は、昭和六年における「国立公園法」の制定にともない、その記念事業として当時を代表する洋画家たちに依頼し、制作されたものをはじめとして、ほぼ五十年にわたり継続的に推進されてきたものである。それ故、現代を代表する七十八名の作家の作品が含まれ、なかには藤島武二の「瀬戸内海」のシリーズなどが制作される契機となったものも含まれている。このような意味からも、単に国立公園を紹介するだけではなく、日本美術史上における風景画の流れを知ることができるであろう。

本展覧会に出品されるものうち、代表的な作家およびその作品については、次のようなものがある。

「朝の仙酔島」梅原龍三郎



（作家の言葉） 古いことで宿の名も忘れたが、いながらにして仙酔島を眺める座敷があった。少し箱庭のような景色でがっかりしたが、明け方など霧のうちに島が浮び出して美しく、そんな時間をえらんで写した。

「十和田湖」林武

（作家の言葉） 自然の美しさは無限で、日々新鮮に僕を迎える。僕は一切を忘れてただその美しさを素直に描こうとする。しかし「絵画」という魔物が僕を裏切り、折角描



き込んだ遠景の魅力に富んだ描写を強引につぶしてそれを全体のハーモニーの中に統一する。この絵が出来上がるまでに少なくとも五枚作品が成就しながら消え去った。ある時は青のトーンに統一された単純化されたマッスの構成、ある時はその上に盛られた遠景と近景との魅力にとんだ描写であつたりした。最後に一度全部が抹殺されると同時に各所に、黄、青、赤等の原色がチューブから直接にカンバスに点々と適量を配置され、それが瞬間の中に均らされてこのように出来上つたのである。

「鳴門」小糸源太郎

（作家の言葉） そのうちに干潮の時刻がきて、いよいよ水が動きはじめたとなつたら、急にそれまでの景色が一変した。驚くばかりの速力で流れ

る潮流が、海峡の岩礁に激突して滝になつて落ちる。すると、例の渦巻がそこにも、ここにも、大きな口を開いて荒れ狂う。ごうごうという汐鳴りが、海の底から湧き上つてもの凄いい。この汐鳴りの響きこそ鳴門風景の伴奏だ。この音がなかつたら、鳴門の価値は半減される。鳴門を描くには、この音が描けなければ駄目だ。そうなると、いささか自信がない。



「伊勢神宮」小磯良平



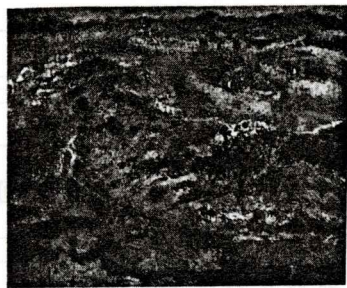
（作家の言葉）

伊勢の神廟



を絵にすることは最初からためらいがちで（長い間の習慣でもあろう）、そしてまた最後まで堅くなっていたようだ。しかし想像以上に神域は絵画的であった。莊嚴とか、いろいろとこの感じを形容する言葉があるようだが、そのどれにもあてはまる場所にはちがいないが、それ以上に絵画的であったことは私にはうれしかった。

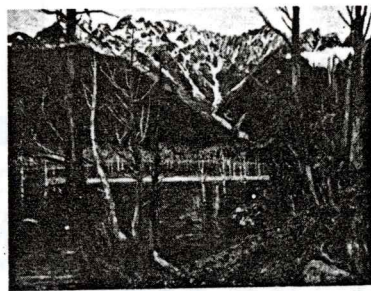
「春の来島海峡」 須田国太郎



（作家の言葉） 時は早春である。瀬戸内海ではもうただ朗かである。茫乎たる海上に点在する島々はモナリザの背景のように浮き上っている。海峡の早流もじつはそこに小波がうつだけにしか見えない。往時八幡船の根拠地であったようなけぶりもなく、明るくシンキロウのような世界であ

る。これがここに十日間滞在して経験した来島海峡に對しての最も強い印象であった。これが少しでも現われていなければ、少くも私のみた来島海峡ではない。したがって私の画は落第である。

「上高地大正池」 中沢弘光



（作家の言葉） 大正池には

やはり鹿の角のような樹木が林立しているのが画になるだろうと私の選んだ構図は、山も見える大正池の全景ともいふべきところを描いたので、平凡な画になった。いつも自然を、ありのままに写す方であるから、山の巒などの形もまず正確に写したつもりである。池畔は静かで、鳥などが水面にうかんでいる。それなども描き添えて見た。しかし焼岳の方は描くことは出来な

かった。

「九十九島」 黒田重太郎



（作家の言葉） この美しさは、舟の動くに連れて、隠見

## 芹沢銈介展を

終えて

アンケートより

今回の「芹沢銈介展」は、本館の企画展としては初めて染色の分野に及んだものであった。それだけに来館される観覧者の関心の方向、男女比、年齢層等、実態の把握に不明な点も多く、多少の不安もあったが、反面大いに興味深いものがあつた。結果的には、数多くの共感を受け、館員一同一先ず安堵の次第であつたが、今後の展覧会企画のうえでも色々参考となる展覧会

出沒しながら、移動して行くことに大半を負っているのは、その美しさを表現するのは、むしろ映画の領分で部分的にはモノを、マルケを、ボナールを思わせるところがあるとしても、リアス海岸の特徴を再現するには、部分的であり過ぎるきらいがある。

なお、その他としては、藤島武二「屋島よりの展望」、坂本繁二郎「暁明の根子岳」和田英作「三保富士」なども含まれている。

であつた。

会期中アンケートに御協力いただいたが、ほとんどの方が真面目で具体的な意見を寄せてくださった。アンケートに記入された方の半数以上（五四・七％）が初めて本館に来館された方であつたことからみて、今回の展覧会には初来館者がかんりの数にのびつた。また、思いがけない遠方（福岡県、大分県、兵庫県、静岡県、新潟県、北海道等）をはじめ、埼玉県、東京都、神奈川県からも多勢の来館者があり、芹沢作品への関心の高さに今さらながら驚くとともに、本館にとつても、大変

会期・入場料

●会期

昭和54年7月20日（金）～8月19日（日）

●入場料 無料

美術を語る会

話題 「風景と作家」

話題提供者 戸田健夫（千葉大学助教授）

日時 7月28日（土）午後2時  
会場 千葉県立美術館

よろこばしいことであつた。

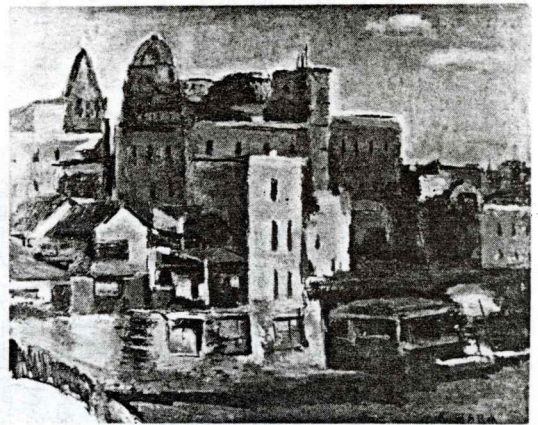
また、本展において初めて芹沢作品に接した方からも異音に感動の言葉が聞かれた。本展の開催を知った媒体については、テレビ、新聞、雑誌の比率が高く、その反面、ポスター等の本館の広報活動の不足を指摘する声が高く、改めて広報手段の再検討の必要を感じた。

なお、毎回のことながら、交通不便について特に指摘が多かったが、これについては近日中に、平日においてもバス運行が開始される予定である。



# 夏の日に美術鑑賞を

## 第3回千葉県移動美術館



原 勝郎「京橋」

千葉県移動美術館も今年で第三回目を迎える。当初、本館自体のP・Rと、本館収蔵作品を活用して、より広範な地域の県民に美術作品鑑賞の機会を提供すること、この二つを大きな目的として出発したものであるが、幸にも、第一回の県立上総博物館（木更津市）、県立安房博物館（館山市）、第二回の松戸市文化ホール（松戸市）、県立総南博物館（大多喜町）といずれも大変な好評をいただいた。

また、この移動美術館を機縁として、その後度々本館に來られるようになったという來館者の言葉を聞くことも多く、移動美術館の成果の現われと、秘かに自負している。

さて、本年度の第三回千葉県移動美術館は、成田市と銚子市で開催することとなった。成田国際文化会館は八月十六日から八月二十九日まで、銚子市役所内市民ホールは九月一日から九月十六日までである。

〈洋画〉

婦人像 浅井 忠  
 洛北の早春 都鳥英喜  
 巴里郊外サンクルール  
 緑のスウェーター 霜鳥之彦  
 ロシアの女 黒田重太郎  
 女と小犬 コーヒーひき  
 京橋 原 勝郎  
 早春 石橋武治  
 裸体 〃  
 丘の上の鐘楼 大久保作次郎  
 沼風景 菅谷元三郎

黒壺に椿一輪 椿 貞雄  
 冬の犬吠岬 三田 康  
 ライラックと蝶 鳩川誠一  
 銚子大新楼にて 無縁寺心澄  
 ハイデルベルグ風景 山本不二夫  
 絵馬による BIRDS 篠崎輝夫  
 INSECTS 媛 嘸  
 廃船 原 三郎  
 竹林 田岡春徑

〈工芸〉

笑獅子香炉 香取秀真  
 鳳凰文様花瓶 〃  
 北辺夜猫子 津田信夫  
 一點玲瓏 〃  
 伸びゆく湾 信田 洋  
 瑞光 山本正年  
 条紋金彩花瓶 鈴木治平  
 向いあう单体 土肥 満

〈書〉

檣龍 浅見喜舟  
 斎藤茂吉の歌 千代倉桜舟  
 古泉千樞の和歌 中村象閣

〈版画〉

赤い鉢と黒いサクランボ 浜口陽三  
 くるみ 〃  
 白い光の塔（グワテマラ） 深沢幸雄  
 飛神 〃  
 シンデレラの広告 池田満寿夫  
 ウェルカム B 〃

瀧 吉岡堅二  
 早春 若木 山  
 海花 杉原元人  
 川口 渡辺 学  
 瀧 篠崎之男

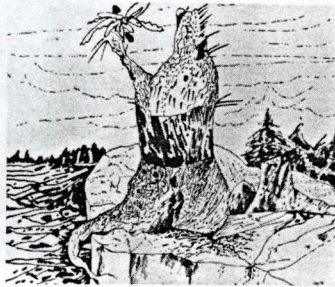


# カナダの自然や生活を版画で

## カナダ風景画展

現在、美術の世界では、版画ブームが高まっている。それは、一般の人々の額絵としての要求が、拍車をかけていることは言うまでもないが、作家自身がある意味で容易な手段として制作に従事する傾向も強くなってきていることも間違いないであろう。たしかに、今日の版画からは、種々多様な表現を見ることができ、現在、カナダには多くの版画家が活躍している。これらの作家の中には、カナダの自然や生活をモチーフとしながら、古来からのエスキモーの芸術、また現代美術の影響を受けながら、独自の世界を創造している人々が多く存在する。

このたびの展覧会では、カナダの版画家による四三三の作品を展示することにより、作家個々の芸術世界を探るとともに、カナダにおける現代版画の動向をも知ろうとするものである。



### ●会期

7月31日(火)～8月12日(日)  
月曜休館

### ●入場料 無料

「みる・かたる・つくる」

の美術館の普及活動の一環として「美術を見る眼」を養うため、毎年「美術館夏季大学」を開設している。これまでは、各分野の歴史と見方や美術品の取扱い方などを主題に行ってきた。今回は、わが国の近代洋画史に焦点を当て、明治・大正・昭和の各時代の特色ある活動を取り上げながら、世相のうつりかわりと対比させつつ、その芸術運動の意義の理解に中心テーマをおき、あわせて日本近代洋画史におけるわが千葉県の位置づけを課題に開講する。

一、場所 千葉県立美術館

### 常設収蔵作品展

房総ゆかりの美術家50人  
九月九日まで開催

常設展では、新収蔵作品をはじめ今日まで展示する機会のなかった作品などを広く公開している。

特に今回は、本館で積極的に調査・研究をすすめる、作品の収蔵を図っている「房総ゆかりの美術家」に焦点をあて

### 二、期間

美術普及室  
昭和54年8月3日(金)・4日(土)の二日間

### 三、時間

午前9時～午後4時

### 四、受講料

無料(但し、テキスト代等若干)

### 第三回

美術館 夏季大学

千の自己負担がある場合もあります。

### 五、内容(題名は仮称)

○日本洋画史の中の房総  
高橋在久(本館副館長)

○前衛美術の先駆者たち

た。すでにこれまで開設した常設展でも、各テーマの中で、これら美術家を取り上げてきたが、今回、さらに多数の房総にゆかり深い美術家の紹介と顕彰に主眼を置き、収蔵作家の中から、各部門にわたり50名の作家の作品を一堂に展観することにした。

日本画では、酒井重人「太海」、渡辺学「夜」、加倉井和夫「殺機」、東山魁夷「門」、など15作家15点。洋画では、浅井

植村鷹千代(美術評論家)

○個性への自覚 ― 佐伯祐三を中心として ―

朝日 晃(東京都美術館事業課長)

○日本近代洋画の黎明期

田中 稔(読売新聞編集委員)

六、募集人員 百名(応募者多数の場合は抽選で決定)

七、応募方法 住所・氏名

電話番号を明記のうえ往復はがきにて美術館内「夏季大学係」宛にお申し込みください。

忠「農婦」、林俊衛「岩和田海岸」、椿貞雄「八重子像」など12作家12点。版画では、浜口陽三「ボブラ」、深沢幸雄「掌の中の影」など3作家6点。書では、浅見喜舟「崔子玉座右銘」、大石隆子「待君」など6作家6点。彫刻では、大須賀力「倚る女」はじめ、6作家6点。工芸では、香取秀真「靈獸文大花瓶」、津田信夫「鳳翔薰炉」など8作家8点である。

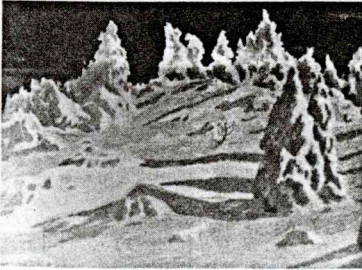


# 新収蔵作品紹介

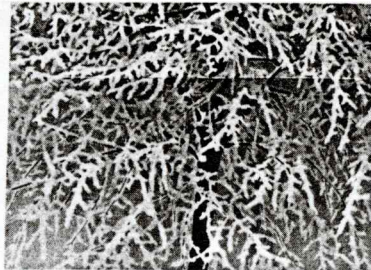
(54年4月～5月)

## 購入

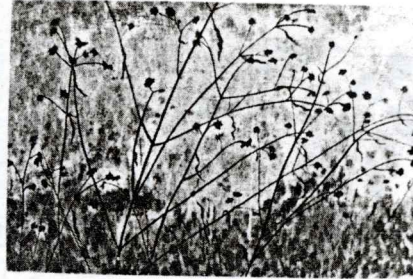
東山魁夷作リトグラフィ集  
「冬の詩」



樹氷



冬華



枯野

### 美の泉

#### 表現の特色

— 日本画・洋画 —

日本画には西洋画にない種々の特色があり、また西洋画には日本画にない長所がある。あるものの特色を知るには他のものと比べて見るのが一番わかりやすい。特色とは他にないもの、個性であるといえよう。

それには油彩絵具と岩絵具、キャンバスと絹や和紙といったような絵具や画材の違い、それによる技法の違いから生じるもののみではなく、対象の捉え方、表現の方法にあることはいうまでもない。そして、それらは、それぞれの風土や伝統に培われてきたものであり、その根底は自然観とか世界観にまでさかのぼるといえよう。

西洋では自然は人間に對立するもの、征服すべきものとしてとらえられ、客観的に観察する合理的・科学的態度を作りあげた。それ

に對し、日本では四季折々に変化する自然の姿に無限の神秘を感じ、その中に和合同化して、自然と一体となろうとする主観的な態度をはぐくんできた。即ち、西洋では写實的な絵画様式を、日本では象徴的な絵画様式を生み出してきたといえよう。

合理的な考え方が早く進んだ西洋では、絵画の上でも現実の人間や、物、それらが存在する場所や背景を、普通だれの目にも映る通り、あたかも鏡に写した様に画面に巧みに再現されている。そのために科学的遠近法（透視図法）陰影法などが考え出され、それがルネッサンス以後の西洋画の伝統的な表現方法の一つとなってきた。

これに對して、日本画では遠くにあるものを近くに、あるものより大きく描いたり、遠景・中景・近景を画面の上の方から平面的に配列したり、描こうとする対象のみをぬきだして陰影や場所を省略するなどいかにも非合理と思われる表現方

法を行ってきた。これは洋画が基本的に光と影の對立によつて「あたかもそこにあるように」写實的に描こうとするのに對して、日本画はある特定の方向の光（陰）にとられず、変化するものの根底にある本質を描こうとする。つまり写意的であり、似形（形を似せる）より以神（こころを似せる）を基本としているからである。

しかし、現在では絵画の目標は客觀的表現から主觀的表現へ移り、作家の内面的なものを表現しようとし、科学的な遠近法・陰影法などは意識的に破られてきている。

日本画の洋画への接近、洋画の東洋的志向。春草のいう画材の違いのみになるのだろうか。



「濤」吉岡堅二



## トピックス

● 槌音も高く

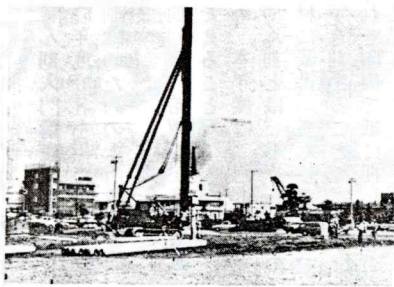
「県民アトリエ」の  
建設工事始まる。

永年の念願であつた「県民アトリエ」の建設工事は、去る三月二十二日より杭

打ちが行われ、本格的な作業に入つた。来年の一月完成を目ざして、一步を歩み出したところであるが、その槌音は着実な歩みを刻んで響き渡っている。

この秋頃には、その外観を見ることができるとであらう。

工事現場風景



● 県土総緑化を合言葉に

県下の緑化運動を目ざした第三十回千葉県郷土緑化県民大会が、四月二十七日（金）本館で開催された。

当日は、あいにくの雨模様であつたが、「緑で結ばう山村と都市」をテーマに約五〇〇名近い人々が集り、また、本館前庭に記念植樹もなされた。

● 入館者の手引として

玄関受付を入つた所にある



ロッカーの脇に、館の概要と注意事項を記した案内板が設置された。

これは、有限会社精華堂のご好意によるもので、今まで一般の入館者の方々に伝えることができなかった館建設の

経過や本館の特色について、また鑑賞する際の一般的な注意など一人一人に知っていただけのものと期待されている。

● 展覧会についての  
声を聞く

第一回美術を語る会

特別展「芹沢銈介展」会期中の五月五日（土・祝）に開催された。当初「染の技法について」というテーマを予定していたが、話題提供者の都合によりテーマを変更し、「芹沢展を見た感想を語る会」として行つた。

参加者から展示についての意見や感想が熱心に語り合われた。

## 伝言板

○「県民アトリエ」の建設工事に伴もない、日曜・祝日に運行されているバスの発着所が移転しました。移転先は、港湾事務所のご好意で玄関に向つて左側の館敷地脇の空地の一角です。お間違ひのないようご利用ください。

## 談話コーナー

美術館を見学して

成田市立東小学校五年

大竹 清人

五月九日、ぼく達四・五六年四〇名は、五名の先生方といっしょに、千葉市に見学旅行をしました。

美術館の見学は千葉港の次ぎの二番目でした。朝早かつたせいか、大へんすいていました。

ぼく達は、二人位をのぞいて美術館の見学ははじめてだったので、普及室におされ、学芸課長の先生に

広い美術館の建物のこと、窓がひとつもなく空気をきれいにするフィルターつきの建物の特色、美術館の役目と仕事、そして、絵などの作品をみるときの注意や

絵の見方などのお話をききました。

ぼく達は、五・六人の人が感想や質問の発見をした

のではめられました。さつそく油絵と彫こく展、それに特別展の作品を見ました。

それから油絵は、どれも中心の色がきまつていてすばらしいと思いました。特にその中で気に入つたのは「馬」の絵でした。本当の馬のようで、今にも走り出しそうでした。

彫こくでは、いろいろな材料が使われていました。木、石こく、鉄、ガラスなどどんなものでも材料になる感じでした。わからない作品もありましたが、本もののような作品がすばらしいと思いました。

せり沢先生の作品展は資料だけ見ました。自然からスケッチして型紙をつくるところが勉強になりました。植物の染物やカレンダーなどが展示されていました。

三カ所見て、こんなすばらしい作品が自分にできたらしいなあと思いました。ぼくは、まだ見たりのないところがたくさんあるので、今度は家の人といっしょに来たいと思っています。

# 各種講座あんない

## ■てん刻入門講座

昨年度好評を得た「てん刻」の制作のための入門講座を開きます。

前回は、希望者が多く期待にそえることができなかったため、本年度は二回行います。てん刻とは、木や石などの印材に篆書（てんしよ）体で文字を刻すること、本来はそれを印肉で紙に押したものを鑑賞します。しかし、その技法そのものは実用的なものとして、蔵書印・落款印などにも応用することができ活用する場は多い。

今回は、ふたたび講師に日展審査員の古川悟氏と謙慎書道会の白取弘苑氏のお二人を迎え、初心者を対象として行い、てん刻の技法や材料を知り、彫る楽しみ、使う喜びを味わうことをめざします。

日時 (第一期)

昭和54年8月25日

(土) 26日(日)

(第二期)

昭和55年2月23日

(土) 24日(日)

二日で一講座

講師

午前10時～午後4時  
古川 悟氏(日展審査員)

会費

白取弘苑氏(謙慎書道会評議員)  
無料(但し、材料費については、自己負担)

募集人員

四十名(応募者多数のときは、抽選で決定)

会場

なお、前年度に本講座を受講された方はご遠慮ください。  
千葉県立美術館研究工作室

申し込み

講座名(一期・二期のいずれかを明記)

住所・氏名・電話番号を記し、往復はがきで、美術館内普及広報班宛

締め切り

(第一期)

昭和54年8月4日

(土)

(第二期)

昭和55年2月1日

(土)

なお、申し込み受付は、当分の間第一期分のみといたします。第二期分の受付は、後日、本館報にてお知らせいたします。

詳細については、美術館学芸課普及広報班まで。

## 団体展

(7月・8月)

▽第7回書壇秀抜展

6・19 7・1 無料

▽千葉市水墨画同好会連合会展

7・3 7・8 無料

▽千葉美術シンボジュウム&青板展

7・10 7・15 無料

▽千葉盲学校陶芸展

7・17 7・22 無料

▽79年精鋭展

7・17 7・29 無料

▽現代美術水か魚か展

8・14 8・19 無料

▽子どもと教師の作品展

8・21 8・26 無料

▽第8回日本習字千葉県書道展

8・21 8・26 無料

▽第9回いてふ会彫刻展

8・21 9・2 無料

▽第7回千葉市教職員美術展

8・28 9・2 無料

## 来館者

4月

四本造形大学教授・金子協議会委員

茨城県教育委員会六名

今井県教育長

三重県教育委員会文化課二名

川上知事外緑化県民大会関係者五〇〇名

亀岡西武美術館部長

長谷川鴨川市長

今井教育長外出張所

山口県立美術館一行

菊間佐倉市長

長谷川正三衆議院議員御夫妻

松井千葉市長

中村審査会委員

芹沢銈介氏御夫妻

金子協議会委員

埼玉県文化行政課美術館準備班二名

4月

2

2

4月

2

2

4月

2

2

4月

2

2

## 日記抄

辞令交付

18 「芹沢銈介展」特別観覧日

19 「芹沢銈介展」オープニング

21 講演会「芹沢銈介の仕事」講師金子量重氏

22 N・H・K日曜美術館に「芹沢銈介展」が放映

25 県美術館・博物館協議会

27 千葉県郷土緑化推進県民大会

28 友の会総会

1 県教育庁広報主任会議

2 県博物館協会役員会

4 地方出張所長会議

5 美術を語る会

13 友の会美術鑑賞パスの旅

14 移動美術館開催打ち合わせ(銈子市)

16 移動美術館開催打ち合わせ(成田市)

17 県博物館協会役員会及び総会

24 常設収蔵作品展オープニング